

高松市立多肥小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

自ら考え 心豊かに とともに生きる子どもの育成

めざす子ども像 「自分から力」と「伸びよう心」をもって「考動する」子ども

【本校の現状と課題】

①「新体力テストの数値分析の結果」より

- 県平均を上回ったのは、108項目中37項目で、前年度より4項目減少した。男女ともソフトボール投げ（投力）、20mシャトルラン（持久力）、長座体前屈（柔軟性）で県平均を大きく下回っている。
- 総合D+E判定の割合が県平均に達していない学年が多い。（男子で4学年、女子で5学年）

②「運動に対する意識・運動習慣」についての分析より

- 限られている中、休み時間に元気よく外で遊ぶ姿が多くみられる。しかし、自ら運動する児童とそうでない児童の運動習慣・運動に対する意欲に差がある。

【取組】

Kagawa 体力番付と関連付けた取り組み

様々な運動に触れられるようにするため、体力番付の活動と関連付けながら、体育委員会の児童を中心に、運動イベントを企画・実践していく。また、運動チャレンジカードを作成して、運動に対する意欲を喚起、継続できるように計画する。本校の課題であるソフトボール投げ（投力）とシャトルラン（持久力）については、ボール運動の学習や持久走、なわとびの学習に加えて、体育委員会の運動イベントの内容に盛り込むことで、日常的に体力向上が図れるようにする。運動が苦手な児童も取り組みやすい内容を考えて実践する。

体育科授業の充実

単元を通して児童に身につけさせたい力を明確にして授業を行うように、全職員に周知する。1時間の授業の中で運動量を確保できるように、活動場所の工夫などを体育部を中心に提案する。また、授業はじめの準備体操時に本校の課題でもある柔軟性を高める運動を行うことで、体力向上を図る。

運動に親しめる環境整備

休み時間は、新運動場（大）、北運動場（中）、中庭（小）、遊具広場、体育館をローテーションで使えるようにしている。竹馬や一輪車、フラフープやボールなど、自由に使って遊べるように、体育委員会が、準備や片付けを行う。片付け方や遊び方の掲示をすることで、運動に親しめるようにもする。

【目標】

①「新体力テストの数値における目標」

- 108項目中、54項目以上県平均を上回れるようにする。
- 総合D+E判定の割合が県平均に達していない学年数を3学年以内にする。

②「運動に対する意識・運動習慣における目標」

- 全校児童の90%以上の児童が運動に対して肯定的な意識をもてるようにする。また、休み時間に外で体を動かす児童の割合を増やす。